

令和6年度 国立夜須高原青少年自然の家 法人ボランティア自主企画事業
「Let's Try Camp in 夜須高原」

- 1 趣 旨 参加者同士の交流やオリエンテーリング、野外炊飯等の自然体験活動をとおして、自分を見つめなおしながら他者との違いを認め合うことでコミュニケーション能力の質の向上を図る。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 企画・運営 国立夜須高原青少年自然の家 法人ボランティア2名、サポートボランティア3名
- 5 期 日 令和6年11月23日(土)～11月24日(日)【1泊2日】
- 6 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 7 対 象 福岡県内に住む小学校5～6年生の児童 計24名
- 8 参加者 8名(小学5年生:8名)
- 9 日 程 ○11月23日(土)
開会式、アイスブレイク、スコアオリエンテーリング作戦会議、スコアオリエンテーリング、夕食、入浴、ふりかえり
○11月24日(日)
朝食、野外炊飯(ビーフカレー)作戦会議、野外炊飯(ビーフカレー)、ふりかえり、閉会式

10 活動の実際



【開会式】



【アイスブレイク】



【作戦会議】



【スコアオリエンテーリング】



【野外炊飯(ビーフカレー)】



【ふりかえり】

10 感想

- きちんと作戦を作れた（スコアオリエンテーリング作戦会議）。
- 最初にどこに行くか、目標はどのようにするかなどを班で話し合うことができた。
- 初めてあった人とも協力をすることができた。
- 野外炊飯（ビーフカレー）を制限時間（13:15）内に終えることができた。

11 成果

- スコアオリエンテーリングでは、提示したミッションを達成するために仲間と協力しようとする参加者の姿が見られた。
- スコアオリエンテーリング中に雨が降り、予定の変更を余儀なくされたが臨機応変に対応することができた。
- 振り返りの活動を通して参加者同士の良さや違いを見つけあい、相手から見た自分の良さを知ることによって参加者の自己理解にもつなげることができた。
- 野外炊飯では、参加者が率先して役割分担をしたり、助け合ったりしようとする発言・態度がみられた。時間を超過してしまった班もあったが、最後まで協力して活動を行っていた。

12 課題

- オリエンテーリングのミッションが簡単すぎたため、参加者が容易に達成できてしまい達成感が予想よりも薄れてしまった。
- 野外炊飯では班の人数が少なかったが時間が短かったため、参加者にとっては少し難しく感じたようだ。
- 企画メンバーとサポートメンバーでの参加者へのかかわり方のイメージが異なっている部分があり、特に振り返りの時間について綿密な話し合いが必要だった。
- アンケートでは、行動が遅れてしまったり、集中して話を聞いていない参加者に対して「もっと厳しくしてほしい」などという声もあったため、全体を統括する者としてどのような言動を行うか運営メンバーで共有しておくべきだった。